

# 「柏崎の水」

## 椎谷の御膳水（お茶水の井戸）

観音岬の夕日が丘公園第1駐車場から、椎谷観音堂の仁王門前を通過し、山へ向かう農道をゆく。すると、奥に弘法大師の伝説を残す不動尊が見える。その手前に、椎谷の御膳水（お茶水の井戸）がある。清水は屋根に覆われており、脇にはお地蔵様が数体佇んでいる。

明治11年（1878年）、明治天皇は北陸東海道御巡幸の折、柏崎を訪れた。9月14日朝7時30分に柏崎行在所を出発した一行は、8時25分に荒浜御小休所に到着、10時10分に椎谷御小休所に到着した。椎谷到着時は、警備のためか、少人数で静かに奉迎したとのことである。

御座所には、代々椎谷藩の御用達を勤めた羽田家の家屋が使用された。羽田家は慶応3年（1867年）に新築された家屋であったが、この日のために8畳の部屋を新築し、そこを玉座とした。天皇の休憩中、椎谷町の羽田才吉は重量二貫四百目（一貫＝約3.75kg）の大力ポチャを、漁師の浅井喜平らは伝馬形小船の中で泳いでいる魚を天覧に供した。（明治天皇聖蹟誌）



椎谷の御膳水（お茶水の井戸） 清水が静かに湧き出している



このとき、天皇に献上するお茶の水になったのが椎谷の御膳水である。また、お茶に利用されたことから、「お茶水の井戸」とも呼ばれている。

この清水は「古来不動堂の茶水として水質良好なるを以て知られたるものなり」（明治天皇新潟県御巡幸六十年記念誌）とあるように、古くから名水として親しまれていたことが伺える。

清水の傍らに「明治天皇御膳水」の石碑が建つ。昭和12年9月に建てられたこの碑には、御膳水と小休所が、史蹟名勝天然記念物保存法（大正8年成立 昭和25年廃止）により史蹟として指定された旨が記されている。

### 参考文献

- 「新潟の名水」新潟日報事業社 2000（290 Nコ）
- 「明治天皇聖蹟誌」中野財団 1924（280 卅）
- 「明治天皇新潟県御巡幸六十年記念誌」新潟県 1937（280 N）
- 「越後佐渡に於ける順徳天皇聖蹟誌」新潟県教育会 1942（280 卅）

- 「柏崎市伝説集」柏崎市教育委員会 1972（388 K 卅）
- 「柏崎市史資料集 近現代篇3上」柏崎市史編さん室 1980（224 K ㄨ）
- 「柏崎市史」柏崎市史編さん室 1990（224 K ㄨ）